

No.10

令和8年1月9日(金)

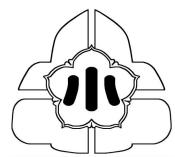
学校だより

下野市立石橋北小学校 TEL52-1134

一人ひとりを大切にした、笑顔いっぱい、やさしさいっぱいの学校

教育目標

- 心豊かな子
- 進んで学ぶ子
- 健康でたくましい子



発行者 齋藤 佳代子



新しい年を迎えご家庭の皆様、地域の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。本年もよろしくお願ひいたします。

冬休みの間、子どもたちは幸い大きな事故等なく、楽しく過ごせたようです。ご家庭での、きめ細かなご指導に感謝いたします。

子どもたちの元気な笑顔が、再び学校に戻ってきました。登校初日各教室をまわると、冬休みの楽しかった出来事を話してくれたり、自信作の宿題を差し出して見せてくれたり、冬休みを過ごした子どもたちは、心も体もひとまわり成長したように感じられます。今年も子どもたちの成長を全力で応援し、一人ひとりを大切にし、笑顔いっぱい、やさしさいっぱいの温かい学校を創っていきます。本年も、保護者の皆様、地域の皆様の温かいご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

最後まで走り抜け 自分の力を試す校内持久走記録会

12月10日(水)に、持久走記録会を行いました。子どもたちは、11月25日から業間の時間を利用して、練習を積み重ねてきました。記録会当日は、低・中・高学年の男女別に走りました。走った距離は、低学年は約1000m、中学年は約1500m、高学年は約2000m走りました。天候にも恵まれ、子どもたちは、自己ベストを目指し最後まで一生懸命走ることができました。保護者の皆様の応援や励ましも大きな力になりました。また、コース内の安全確保にご協力していただいた保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。



2年生 校外学習で体験する新しい発見!

12月4日(木)、石橋図書館に見学に行きました。小学校生活で初めての電車を使った校外学習でした。今回は駅の見学だけでなく、実際に切符を購入し、電車に乗る体験もしました。子どもたちは公共の場でのマナーをきちんと守り、安全に乗車することができました。また、石橋図書館でも、司書の方に質問したり、メモを取ったり、しっかり見学できました。



資源を未来へ！PTA廃品回収に感謝



○第2回廃品回収 12月6日(土)

第2回廃品回収を実施することができました。この日は、天候にも恵まれ回収作業もスムーズに行うことができました。直接学校にお届けいただきました地域の方も多くいらっしゃり、大変ありがとうございます。温かいご支援、ご協力をいただきました皆様並びに地域の皆様に、心より感謝申し上げますとともに、下記のとおり結果報告をさせていただきます。この収益金は、今後の児童の教育活動に役立てていきたいと思います。ご協力ありがとうございました。

廃品回収収益金 合計	117,315円
【内訳】 新聞	35,185円
雑誌	6,050円
ダンボール	15,840円
アルミ缶	60,000円
スチール缶	240円

学校のある平日の廃品回収については、下記のとおりです。よろしくお願ひいたします。
・アルミ缶回収→木・金曜日の児童登校時
・新聞、雑誌、ダンボール回収
→木・金曜日



クラブのヒミツ、大公開

12月19日(金)、3年生がクラブ見学を行いました。来年からはそれぞれクラブに所属し活動します。わくわく、興味津々で各場所を見学しました。それぞれの場所での3年生のあいさつが大変立派でした。自分の興味・関心のあるクラブで、めあてをもって取り組めるといいですね。4・5・6年生が、3年生を優しくリードする姿も頼もしく感じました。



あいさつNO1めざし 3A委員会

石北小の当たり前の取組『あいさつができる子』を広めるため、3A委員会が中心となって活動しています。児童たちは、朝の放送であいさつを呼びかけたり、「あいさつbingoカード」を配布し、すべてのあいさつができる=bingoを達成すると「あいさつマスター」任命書がもらえたりします。積極的にあいさつする子を増やし、明るい学校を目指しています。



Shimotsuke English Forum

12月13日(土)、きらら館で「Shimotsuke English Forum」が開催されました。このフォーラムは、「国際社会で活躍できる児童生徒の育成」へ向けた取組の一つとして、英語プレゼ



ンテーション発表会及び、市内に勤務しているALTの先生との交流会を行うものです。本校から、6年生6名、5年生3名が参加しました。昼休みや休み時間を利用して、少しずつ準備し、練習してきた成果を英語でプレゼンしました。自分たちの将来の夢や担任の先生の紹介を、ジェスチャーを交えながら、楽しそうに発表できました。会場の来場者の反応を感じながら、一人ひとりが英語でしっかり伝えていました。

